

第95号 校友会報 26卷2号

昭和52年12月



学校法人工学院大学創立90周年記念式典

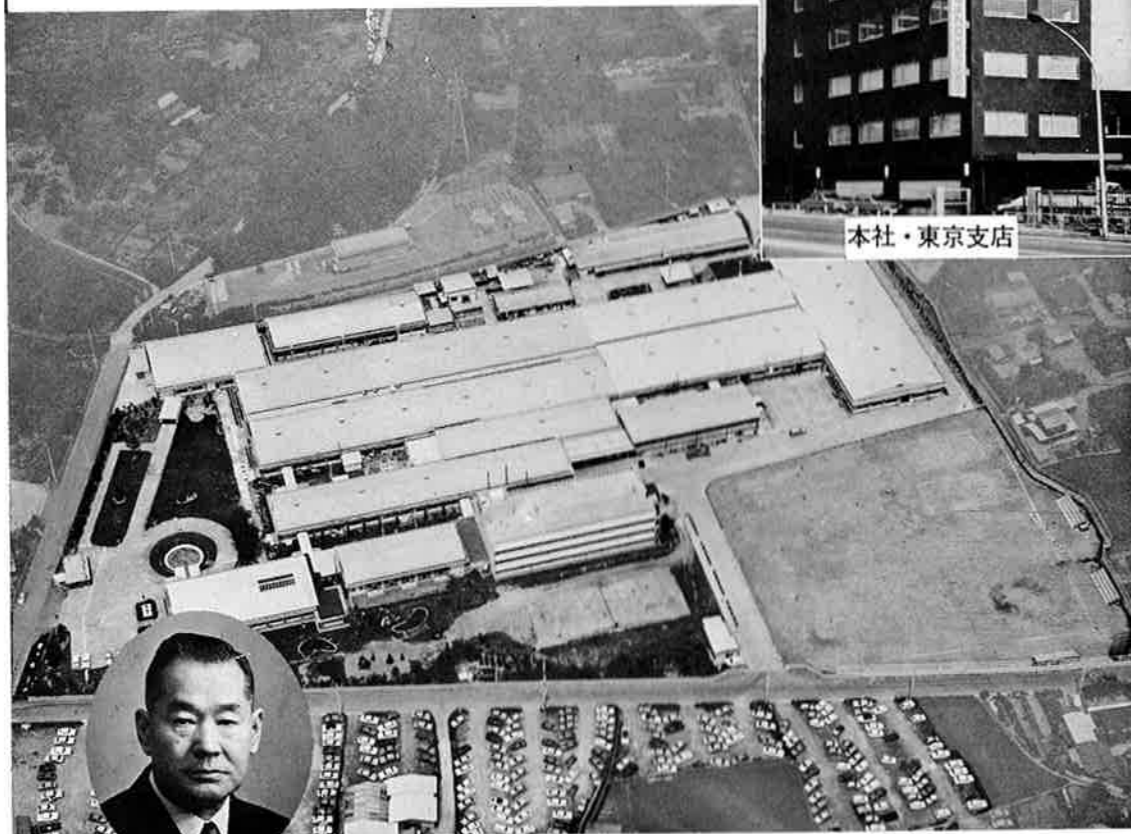
— も く じ —

| | | | |
|--------------------------|----|-------------------------|----|
| ○工学院大学創立90周年記念式典…………… | 1 | ○校友会だより…………… | 12 |
| ○校友会・学園同窓会合併祝賀会報告…金尾 武彦… | 6 | ○支部だより | |
| ○同窓会との合併経過報告……………総務部… | 6 | ・中野支部……………竹内 七蔵… | 13 |
| ○台湾校友会総会開催……………落合 康男… | 7 | ・北海道支部……………小柳 新平… | 13 |
| ○合併問題を討議する各支部総会の開催 | | ・足立支部……………角田 孝助… | 14 |
| ……………落合 康男… | 9 | ・八南支部……………菊池 誠… | 15 |
| ○叙勲者のご紹介……………編集部… | 10 | ○工手学校・工学院ご出身の皆様へ…森山 健次… | 17 |
| ○法人だより…………… | 10 | ○昭和53年新年懇親会のお知らせ…………… | 17 |
| ○大学だより…………… | 11 | | |

世界水準を誇る品質と技術
圧力計 温度計 カロリメータ 液面計



本社・東京支店



上田工場



代表取締役社長
計量士
溝呂木金太郎
(大正10年機械科卒)



株式会社 長野計器製作所

| | | | |
|--------------------|---|------|-----------------------|
| 本社 | 東京都大田区東馬込1丁目30番4号 | 〒143 | ☎ 03 (776) 5311 (大代表) |
| 上田工場 | 長野県上田市大字秋和1150番地 | 〒386 | ☎ 0268 (22) 7530 (代表) |
| 東京工場 | 東京都大田区中央3丁目15番16号 | 〒143 | ☎ 03 (772) 2161 (代表) |
| 東京支店 | 東京都大田区東馬込1丁目30番4号 | 〒143 | ☎ 03 (776) 5311 (大代表) |
| 大阪支店 | 大阪市東区北久太郎町2丁目45番地(幸ビル) | 〒541 | ☎ 06 (261) 7291 (代表) |
| 名古屋支店 | 名古屋市中区錦1丁目1番20号(大永ビル) | 〒460 | ☎ 052 (211) 4551 (代表) |
| 九州支店 | 福岡市中央区大名1丁目12番65号(天ビル) | 〒810 | ☎ 092 (771) 5388 (代表) |
| 広島営業所 | 広島県広島市橋本町6番11号(細手ビル) | 〒730 | ☎ 0822 (28) 2341 (代表) |
| 静岡営業所 | 静岡県清水市港町1丁目1番1号(港ビル) | 〒424 | ☎ 0543 (53) 6141 (代表) |
| 札幌営業所 | 札幌市中央区北二条西4丁目1番地(三井ビル) | 〒060 | ☎ 011 (213) 3145 (代表) |
| 仙台出張所 | 宮城県仙台市一番町1丁目13番20号(村上ビル) | 〒980 | ☎ 0222 (27) 9331 (代表) |
| 四国出張所 | 香川県高松市多賀町3丁目2番14号 | 〒760 | ☎ 0878 (31) 8478 (代表) |
| 富山出張所 | 富山県富山市八人町9-11(セトビル) | 〒930 | ☎ 0764 (41) 6949 (代表) |
| ブラジルサンパウロ 連絡事務所 | a/e MITSUI BRASILEIRA IMPORTAÇÃO E EXPORTAÇÃO LTDA, Rua Dr. Bernardino de Campos, 98-13* - Paraíso Sao Paulo, BRASIL TEL 287-8722 | | |

学校法人 工学院大学
創立90周年記念式典行なわる

とき 昭和52年10月31日(月)午前10時半より
ところ 工学院大学新宿校舎四階講堂

工学院大学創立90周年記念式次第

1. 開式
2. 工学学校設置設立趣意書朗読 (前島校友会長)
3. 学園年譜抄朗読 法人・剛崎総務部長
4. 理事長式辞
5. 学長挨拶
6. 創立90周年記念事業経過報告 (横田常任理事)
7. 永年勤続者表彰状及び感謝状贈呈
8. 功労者感謝状贈呈
9. 来賓祝辞
 - (1) 私立大学連合会理事長 (日本医科大学長)
 - (2) 東京理科大学学長
 - (3) 東京工科大学長
 - (4) 前大学後援会長
10. 閉式
(式終了後8階にて祝賀会を開催)

創立90周年記念事業

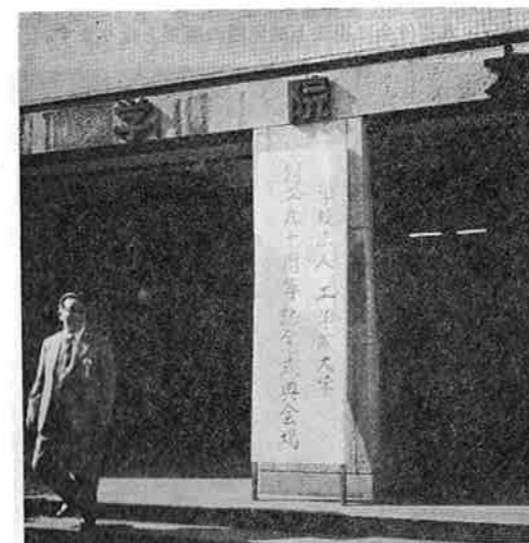
1. 資金募集趣意

学校法人工学院大学の淵源は明治20年であり、当時の東京帝国大学総長渡辺洪基氏らの発意により東京築地にその高邁な識見の下に中堅工業技術者養成の機関として創立されました。これが本学園の前身である「工学学校」であります。その後幾多の変遷を経て、昭和3年には現校舎の存在する新宿の地に工学院と改称して伝統を守ってまいりました。昭和19年には工学院工業専門学校を創設し、昭和24年の学制改革においては陣容を新たにして新制大学を設立し、また同年には夜間の修学を専門とする工学院が工学院大学専修学校として再出発しました。

翌25年には短期大学部を設置するとともに新学科を増設し更に昭和33年工学専攻科、昭和39年大学院修士課程、昭和41年には大学院博士課程を設置するに至りました。一方高等学校は昭和19年工学院工業学校(昼間)として始まり、昭和21年には工学院第二工業学校(夜間)が学園内に併設され、学制改革により工学院中学校、工学院高等学校第一部、第二部となり後に工学院大学高等学校全日制となり、現在は八王子の地で運営されております。昭和52年には工学院大学専修学校は工学院大学専門学校と改称されました。このように工学を専門とする当学園は誇り高い伝統と建学の精神に基づいて、わが国文化の向上と科学技術の発展のために、これまで幾多の人材を社会に送り出して参りました。

さて、わが学園は昭和52年10月をもちまして、いよいよ創立90周年を迎えることになり、そこで長い歴史をふまえて、ここまで発展してきた学園の一区切りを記念として、次のような事業を実施することになりました。

まず、工学院大学富士吉田セミナー校舎の建設を初めとして継続的に八王子校舎の教育施設、更に新宿校舎の教育用の施設及び設備、併せて新宿校舎別館校地の購入



正面玄関

2 第26巻 第2号

費に充当するための記念事業計画をたて、これに要する費用は大方のご厚志による募金に仰ごうとするものであります。

ご承知のとおり目下我が国は高度経済成長期が終焉し、これからは徐々に安定成長へと移行してゆく転期であり、今後到底過去の好況は望めません。

このような時期にご寄付をお願い申し上げることは、まことに心苦しいことではありますが、学府という特殊な社会的事業体であることをご理解下さいまして、格別のご援助とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

II. 創立90周年記念事業計画

1. 富士吉田
セミナー校舎建設 3億円
鉄筋コンクリート造、地上2階、地下1階。
延面積 1,600㎡
宿泊室、集会室、食堂、ロビー、ラウンジ、管理人住宅部分など学園の学生、生徒、教職員、卒業生、父母及びその関係者の利用に供する。
2. 新宿校舎別館
校地購入費 5億円
3. 八王子校舎
実験棟の建設 1億円
鉄筋コンクリート造1階建、660㎡建設
高校隣接地の大学実験棟関係の諸施設は高校用に拡

充整備する。

4. 新宿校舎
研究学習棟の拡充 1億円
鉄筋コンクリート造
1フロア分330㎡建設と設備関係視聴覚教室及び語学学習LILシステムの整備。大学と専門学校が共用する。

III. 資金募集要項

1. 募集目標額 10億円
2. 募金対象 卒業生・会社団体・在学生の父母・教職員
3. 申込金 1口5千円
◎個人の場合：なるべくならば2口以上お願いします。ただし口数金額とも任意です。また分割払いでも結構です。
◎法人の場合：なるべく20口以上お願いします。一時払い又は分割払いでも結構です。
4. 払込期日 昭和52年7月1日より昭和54年3月31日まで
5. 申込場所 学校法人工学院大学
創立90周年記念事業委員会事務局宛お申し出下さい。

免税優遇措置

・本寄付金は税法上減免税の取扱となります。

- ・個人の場合……寄付金の1万円を超える金額が総所得額より控除されます。ただし、総所得額の25%が限度です。
- ・法人の場合……寄付金の全額が損金に算入されます。

IV. 創立90周年記念事業委員会組織

創立90周年記念事業委員会 委員長 橋本 宇一

総合委員会（事業運営と事務処理）

委員長 橋本 宇一

計画委員会（建設計画・施設改善計画等）

委員長 伊藤 鄭 爾

事業委員会（建設計画の実施・施設の整備等）

委員長 横田 道 夫

募金委員会（募金計画と実施等）

委員長 橋本 宇一

創立90周年記念事業委員会事務局

室長 宮本 道

工学院大学学園の沿革

- 明治20年10月31日 工手学校設立協議会を開き、設立趣意書を公表した。のちにこの日を創立記念日とした。
- 21年1月 東京帝国大学総長渡辺洪基氏管理長に就任、学校長に中村貞吉氏が就任、土木・建築・機械・電気・造船・採鉱冶金・製造化学の8学科を置いた。
- 9月 京橋区南小田原町に校舎が落成した。
- 29年2月 火災により校舎が焼失した。
- 4月 宮内省より御下賜金を賜った。
- 7月 校舎の再築が落成した。
- 31年12月 財団法人工手学校を設立した。
- 大正12年9月 関東大震災により校舎が全焼した。
- 11月 淀橋町日本中学校を仮校舎として授業を行なう。
- 昭和3年4月 淀橋町に新校舎が落成した。
- 7月 校名及び財団法人名を工学院と改めた。
- 13年10月 創立50周年記念として本館4階の増築が落成した。
- 19年4月 工学院工業専門学校及び工学院工業学校

を開校した。

- 20年3月 工学院工業学校を工学院第1工業学校と改めた。
- 21年5月 工学院第2工業学校を設けた。
- 22年4月 工学院中学校を設けた。
- 23年4月 学制改革により第1及び第2工業学校を廃し高等学校第1部及び第2部を置いた。
- 24年4月 工学院大学を開設、機械工学科、工業化学科を置いた。
工学院大学中学校、工学院大学高等学校、工学院専修学校と改めた。
財団法人工学院を財団法人工学院大学と改めた。
- 25年3月 工学院工業専門学校を廃止した。
- 5月 工学院大学短期大学部を開設し機械・工業化学・電気の3科を置いた。
- 26年3月 財団法人工学院大学を学校法人工学院大学に組織を変更した。
工学院専修学校を工学院大学専修学校と改めた。
- 27年4月 工学院大学短期大学部に建築科を増設した。
- 5月 第2号館を新築した。
- 29年2月 東京都北多摩郡小平町鷹野台に運動場用地を購入。
- 30年4月 工学院大学に電気工学科・建築学科の2学科を増設した。
- 31年5月 工学院大学短期大学部を廃止した。
- 33年3月 工学院大学中学校を廃止した。
- 4月 工学院大学に工学専攻科（第1部・第2部）を設け機械工学専攻・工業化学専攻を置いた。
- 9月 本館5階の増築が竣工した。
- 34年4月 工学院大学工学専攻科（第1部・第2部）に電気工学専攻・建築学専攻を増設した。
- 35年3月 新館新築第1期工事が竣工した。
- 36年3月 新館第2期工事が竣工した。
- 37年4月 工学院大学第1部に生産機械工学科・電子工学科の2学科を増設した。
八王子市中野町および犬目町地域に校地の購入を完了した。



祝賀会風景

10月 学園創立75周年記念式典を挙行政した。
 38年4月 工学院大学八王子校舎で授業を開始した
 8月 富士吉田市新屋地域に運動場用地を購入し、富士学寮を建築した。
 10月 八王子校舎建築第1期工事の全部を完了した。
 11月 八王子校舎開設式を挙行政した。
 39年3月 工学院大学工学専攻科第1部を廃止した
 4月 工学院大学に大学院工学研究科修士課程を設け機械工学専攻・工業化学専攻・電気工学専攻・建築学専攻を置いた。
 7月 富士吉田運動場の整地工事を完了し、富士学寮開設式を挙行政した。
 7月 八王子校舎第1、第2実験棟、第1製図棟の建築を完了した。
 40年2月 八王子校舎第2号館の建築を完了した。
 9月 八王子校舎谷野町地域第1次整地工事を完了した。
 41年4月 工学院大学大学院工学研究科に博士課程(機械工学専攻・工業化学専攻・電気工学専攻・建築学専攻)を増設した。
 6月 たかの台校地を処分した。
 42年4月 八王子校地に高等学校本館・体育館の建築を完了した。
 高等学校の所在地を八王子市に移し、第1学年の授業を開始した。
 10月 工学院大学に電子計算機センターを設置した。
 11月 高等学校八王子校舎落成式を挙行政した。
 43年3月 高等学校定時制課程を廃止した。
 6月 八王子校舎化学実験棟及び付属建物の建築を完了した。
 45年4月 第1部の工業化学科のコースを廃止し化学工学科を新設した。第1部の電子工学科に情報工学コースを新設した。
 46年11月 新館9階の増築が竣工した。
 47年3月 工学院大学の建築学科のコースを廃止した。
 48年4月 新宿校舎隣接地に運動場の購入を完了した。
 49年6月 高等学校にプールの建設を完了した。

10月 工学院大学専修学校建築科に研究科を新設した。
 50年4月 高等学校の建設科を建築科に名称変更した。
 52年1月 工学院大学専修学校を廃止し工学院大学専門学校を設置した。

学 科 組 織

工学院大学
 工 学 部 第1部(昼)
 機械工学科
 生産機械工学科
 工業化学科
 化学工学科
 電気工学科
 電子工学科 { 電子工学コース
 情報工学コース
 建築学科
 第2部(夜)
 機械工学科 { 機械工学コース
 生産機械工学コース
 工業化学科 { 工業化学コース
 化学工学コース
 電気工学科 { 電気工学コース
 電子工学コース
 建築学科
 工学専攻科(夜)
 機械工学専攻
 工業化学専攻
 電気工学専攻
 建築学専攻
 大 学 院(昼) 工学研究科 修士課程、博士課程
 機械工学専攻 工業化学専攻
 電気工学専攻 建築学専攻
 工学院大学高等学校(全日制課程)
 工業に関する学科 機械科 電気科 建築科
 工業化学科
 普 通 科
 工学院大学専門学校(夜) 工業専門課程
 土木科 機械科 建築科 電気科
 造船科 応用化学科 金属科
 建築科研究科

学 園 教 職 員 学 生 生 徒 数

昭和52年10月 現在

教 職 員 数

| 部 門 | 法 人 | 大 学 | 高 校 | 専 門 学 校 | 合 計 |
|---------|-----|-----|-----|---------|-----|
| 種 別 | | | | | |
| 教 育 職 員 | | 229 | 46 | 19 | 294 |
| 一 般 職 員 | 75 | 129 | 9 | 5 | 218 |
| 合 計 | 75 | 358 | 55 | 24 | 512 |

学 生 生 徒 数

| 学 校 別 | 大 学 | | | | | | 高 校 | 専 門 学 校 | 合 計 | |
|---------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|--------|
| | 部 別 | 大 学 院 | | 専 攻 科 | 1 部 | 2 部 | | | | 計 |
| 博 士 | | 修 士 | 研 究 科 | | | | | | | |
| 機 械 | 4 | 10 | 26 | 936 | 482 | 1,458 | 154 | 126 | 1,738 | |
| 生 産 機 械 | | | | 569 | 131 | 700 | | | 700 | |
| 工 業 化 学 | 4 | 14 | | 537 | 208 | 763 | 151 | 119 | 1,033 | |
| 化 学 工 学 | | | | 425 | 124 | 549 | | | 549 | |
| 電 気 | 4 | 18 | 19 | 750 | 366 | 1,157 | 164 | 159 | 1,480 | |
| 電 子 | | | | 490 | 414 | 904 | | | 904 | |
| 情 報 | | | | 266 | | 266 | | | 266 | |
| 建 築 | | 28 | 15 | 1,233 | 936 | 2,212 | 158 | 53 | 760 | 3,183 |
| 土 木 | | | | | | | | 210 | 210 | |
| 造 船 | | | | | | | | 40 | 40 | |
| 金 属 | | | | | | | | 14 | 14 | |
| 普 通 | | | | | | | 614 | | 614 | |
| 合 計 | 12 | 70 | 60 | 5,206 | 2,661 | 8,009 | 1,268 | 53 | 1,428 | 10,758 |

第20回工学院大学研究発表講演会

日時 昭和52年10月31日(月)13時~16時30分
 場所 新宿校舎4・5階(第1、第2会場)
 機械・生産関係 11題目
 化学関係 4題目

電気・電子関係 17題目
 建築関係 8題目

以上の研究発表が本学教授、助教授、講師、助手、卒業生および博士課程、修士課程の人々によって行われ盛況であった。

校友会・学園同窓会合併祝賀会

金尾 武彦

永年の懸案でありました合併問題も、校友会々長前島為司、学園同窓会前会長山根茂両会長の覚書に基づき双方の合意を得て、来る昭和53年4月より合併実現の運びとなりました。

時に母校工学院大学学園も創立90周年を迎え、その喜びと共に、ここに合併祝賀会が目出度く開催されました。

日時 昭和52.11.6(日)12時30分～15.00
 会場 工学院大学第1、第2会議室(新宿校舎8階)
 出席者 学校側 7名
 校友会 49名
 同窓会 61名
 計 117名

定刻に95%の出席を得、篠原校友会理事の司会で第1部が始まる。

開会の辞を校友会北野副会長、次いで前島校友会々長、八木同窓会々長の経過概要があり、祝詞として先づ橋本理事長、伊藤学長の御挨拶の後、学園同窓会前会長山根先生の乾杯で懇談会に入り第2部が始まる。

建築同窓会小高会長の司会により、校友会前会長、前島会長と多くの合併問題に御尽力の方々の祝辞を受けて、そのかわり大学生のマンドリンクラブの演奏が入り、なごやんだ空気が会場一杯に流れる。長かった合併問題はここに終止符を打ち、そこそこに笑顔と喜びの歓談が演奏をさえぎる。

終りに現各科同窓会会長の方々との挨拶と閉会の辞に同窓会森山副会長の挨拶が目出度く会を閉じる。時、昭和52年8月6日午後3時であった。

同窓会との合併経過報告

総務部

会報93号(昭和52年3月発行)で、同窓会との合併の概要をお知らせすると共に、新会発足までの諸手続につ

いても言及いたしました。その後、これ等の手続は順調に進み、昭和53年4月1日を期して、学園同窓会と校友会が合併し、新会(社団法人工学院大学々園校友会)が発足することになりました。昭和42年以来、実に11年の歳月がついやされたこととなります。次に、これまでの経過をお知らせ致します。

校友会の最高議決機関は総会ですが、ここで合併問題を審議する前に、会員各位に充分理解していただくため、各種の会議がもたれました。先ず、2月26日に“相談役及び参与の会”が開かれ、会の発展につくされた先輩諸氏の了解をいただき、3月27日には、“全国支部長会議”を開催して、全国から参集した支部長、副支部長の方々に、合併問題を討議していただきました。代議員の選出、支部長の位置付け、等で要望が出されましたが、合併後2年間は、修正期間とも云うべきもので、この間に充分考慮することで了承されました。

これと前後して、各支部長宛に、文書で支部総会の開催を要請し、本部より担当理事が出席して、合併問題の説明を行うことになりましたが、36ヶ所の支部で支部総会が開催され、合併について活発な討議が行われました。

(会報94号、並びに本号の“合併問題を討議する各支部総会の開催”の記事参照。)種々の提案がなされましたが、合併後に検討することで了承され、一日も早く合併することが切望されました。

5月19日付で、校友会長、学園同窓会長の間に合併に関する覚書が交換されたことは、前回の会報94号所載前島会長の記事に詳説されておりますが、合併後、定款、施行細則の再検討を条件に、両会が合併することをはっきりと確約し合った点で、大変に意義のあることでした。

こうして、7月22日の第29回評議員会で承認され、7月29日の第21回定時総会において、原案通り可決、ここに同窓会との合併が、正式に承認されて、すべての手続が完了しました。

一方、同窓会側でも、9月25日の大学応化会総会を最後に、合併に関するすべての手続が終了しました。

こうした合併承認手続と平行して、新会発足までに必要な諸問題を話し合う両会の機関として、“新会発足準備委員会”が結成され、7月6日に第1回の会合を行いました。委員の方々には次の通りです。

新会発足準備委員会委員氏名
(順不同、敬称略)

(同窓会側)

八木平八郎 (大学機械工学同窓会長)
 間富富士雄 (〃 応化会長)
 内山 太 (〃 電気同窓会長)
 小高 鎮夫 (〃 建築学科同窓会長)
 榎本 忠良 (高等学校同窓会副会長)
 森山 健次 (専門学校同窓会長)

(校友会側)

小野塚政雄 (総務部長)
 篠原 梅吉 (総務部副部長)
 南 喜八郎 (経理部長)
 金尾 武彦 (事業部副部長)
 落合 康男 (支部拡充部長)

合計 11名

同委員会での協議の結果、

- 1) 新会の発足は、来年4月1日とする。
- 2) 新会発足後2年間は、言わば、修正期間で、定款等の再検討、両会からの要望の審議、等を行い、実際に則して、新会の修正、強化を行うこと。
- 3) 合併が合意されたことを記念して、祝賀会を開催すること。

等が決まりました。

この祝賀会は、11月6日、“校友会、学園同窓会合併祝賀会”の名称で、学園、校友会、同窓会の関係者多数が出席して、盛大に開催されました。(詳細は、本号掲載の、合併祝賀会の記事を参照下さい。)

目下、文部省に、交友会定款の変更を申請中(新会の定款は、校友会の定款を変更して使用するため。)であり、両会においても、新会発足までの準備を着々と進めております。

長い年月を要して、やっと合併が実現することになりましたが、これは偏に、会員各位のご理解と、昭和42年以来、その衝に当って来られた多くの方々(その中には、物故された方も少なくありません。)の熱意と努力の賜物です。それにしても、この11年間の歳月は、私達に色々なことを教えてくれました。それは、再びこの様なことをくりかえしてはならないと云う教訓であり、“禍を転じて福となす”意気込みでもあり、そして、生れかわる喜びでもあるはずです。

今後のため、お互の親睦提携のために、頑張ってくださいと思います。(落合康男記)

台湾校友会総会開催

支部拡充部長 落合 康男

台湾校友会は、昨年6月13日設立以来、1ヶ年を経過しましたが、この間、杜瑞昌会長の献身的なご努力によって、発展の一途をたどっておられることは誠に喜ばしいかぎりです。

社会長より、今年の総会の日取りが、6月12日(日)



との連絡をいただき、早速訪台の準備にかかりました。

今年も、昨年と同様に、観光を兼ねての訪台となり、東京、台北間の航空券、出国手続等は、日本アジア航空の航空機関士で、出身者の瀬戸川睦人氏(G生機2)のご厚意により、ダイヤモンド航空サービス(株)にお願いすることになりました。尚、瀬戸川氏は、日本航空から日本アジア航空へ出向しておられ、台湾校友会のために、色々な面でご尽力をいただいております。(現在は、日本航空へもどられました。)

次に台湾の観光は、前島会長の紹介による台北市の旅行社、三箭旅運社にお願いすることになり、同社との折衝等は、すべて社会長におまかせし、別表の様な旅行プランを立てていただきました。

別表 台湾旅行プラン

| 日時 | 日・曜 | 発着地/宿泊地名 | 発着現地時間 | 交通機関名 | 行動予定 |
|----|--------------|--------------|----------------|----------------------------|--|
| 1 | 6月11日 (土) | 東京~台北 台北泊 | 9:00 | EG201 (日本アジア航空) 観光バス | <ul style="list-style-type: none"> 台北着 11.15 (現地時間) 入国手続後レストランにて昼食。 バスにて世界四大博物院の一つ、アジアの宝庫、故宫博物院参観。 フーバレストランにて、ショーを見ながら夕食。 宿泊：台北市、台華大飯店 |
| 2 | 6月12日 (日) | 台北~花蓮 花蓮泊 | 14:30 15:00 | FAT131 (遠東航空) | <ul style="list-style-type: none"> ホテルにて朝食。午前中、台湾校友会総会。 レストランにて昼食 (台湾校友会懇親会。会費別途) FAT131 便にて花蓮へ。着後バスにて大理石工場見学。 レストランにて夕食。食後、文化村アミ族娘達の踊り観賞。 宿泊：花蓮市、亜士都飯店 |
| 3 | 6月13日 (月) | 花蓮~台北 台北泊 | 14:00 15:30 | FAT132 (遠東航空) | <ul style="list-style-type: none"> ホテルにて朝食。バスにて天下の絶景タコロ峡谷観光。 レストランにて昼食。FAT132 便にて台北へ。 台北着。レストランにて夕食。 宿泊：台北市、台華大飯店 |
| 4 | 6月14日 (火) | 台北~東京 | 17:50 | EG204 (日本アジア航空) | <ul style="list-style-type: none"> ホテルにて朝食。バスにて台北市内名所、古蹟観光。 市内レストランにて昼食。 像俱展示場、芸術陶器工場見学後、身廻り整理及び税関説明会。 数々の思い出を秘めて帰国 (羽田着) 21:45 |

今回は、なるべく多くの方々に参加してもらおうべく、200 通近い葉書で、訪台を呼びかけましたが、ご多忙の方が多かったためか、結果は、同伴者を含め13名にとどまりました。この他、長崎県支部前支部長の坂口義雄氏は、長崎県港湾協会会長として、台湾の港湾視察を、今回の台湾校友会総会の時期に合わせて下され、ご多用の中を総会に出席して下さいましたし、福岡県支部の西原康行氏も、現場での忙しい日程をさいて参加して下さいましたので、合計15名となりました。

私達は、出国の諸手続を完了し、6月11日午前9時、瀬戸川氏の塔乗する日本アジア航空便で、羽田空港から訪台の途につきました。

さて、総会当日の6月12日には、宿舎の台華大飯店に、台湾の校友諸氏が、夫人同伴で次々に参集し、午前9時

30分、一同は、旅行社のバスに乗って、会場の北投温泉“北投大飯店”へと向かいました。

総会は、前島校友会会長、杜台湾校友会会長の挨拶で始まり、小野塚総務部長と私が学園や校友会の現状、特に、同窓会との合併問題や、各支部の現況等につき説明して、つつがなく終了しました。次いで、一同で記念撮影を行い、懇親会に移り、着飾った夫人達をまじえて、華やかな雰囲気の中に、台湾料理の珍味に舌つづみをうち、一年ぶりの旧交を温め、談笑のうちに、たのしいひとときをすごしました。

午後1時すぎに解散となり、私達は午後2時30分の飛行機で花蓮に行くため、台湾校友の方々と、あわただしくお別れし、台北国際空港へと向いました。私達の旅行に合わせるため、総会の時間が短くなったことは、ご多

忙の中を台湾各地から集って下さった校友諸氏に申し訳なく、帰りのバスの中でも、なごりおしさと共に、うしろ髪を引かれる思いでした。

当日の出席者は、下記の通りです。

- (台湾校友会々員) 一順不同、敬称略—
- | | |
|-----------|--------------|
| 黄崇淵 (C化1) | 黄雅夫 (大学院、化6) |
| 同夫人 | 同夫人 (令嬢同伴) |
| 周詩傑 (C化1) | 廖以信 (G電2) |
| 同夫人 | 同夫人 |
| 陳振霖 (C化1) | 高橋久純 (G化工6) |
| 杜瑞昌 (G化5) | 同夫人 |
| 同夫人 | 計 13名 |
- (日本よりの参加者)
- | | |
|--------------|-------------|
| 前島為司 (A建72) | 増田整治 (B建74) |
| 同夫人 | 同夫人 |
| 増本真澄 (D建147) | |

- | | |
|--------------|-------------|
| 伊藤真治 (A土69) | 坂口義雄 (A土71) |
| 小宮清則 (A土67) | 西原康行 (G化15) |
| 同夫人 | 落合康男 (C化1) |
| 松島一郎 (B建83) | 同夫人 |
| 小野塚政雄 (B機93) | 計 15名 |
| 神戸保巳 | |

合計 28名

このたびの訪台に際しては、現地の方々にご厚情を賜わり厚くお礼申し上げます。特に、社会長ご夫妻には大変お世話になりました。私達の旅行の計画から、種々の折衝、しかも、ご多忙の中を、私達と行動を共にされて、何くれとなくお世話下さったご懇情に対しては、お礼の言葉もありません。この紙上をかりて、衷心より感謝の意を表します。

終りに、台湾校友会のご発展と、会員諸氏のご多祥を心から念願してやみません。

合併問題を討議する 各支部総会の開催 (2)

支部拡充部長 落合 康男

合併問題を討議する支部総会開催の状況については、

前回の会報94号でお知らせしましたが、その後開催された支部名、開催月日、会場等は、下表の通りです。

尚、討議の内容等は、前回掲載分と同様で、多少の不満があっても、合併することが先決である。種々の意見は、合併後に考慮してもらいたい。一等で、いずれも合併については了承されました。

| No. | 支部名 | 開催月日 | 会場 |
|-----|---------------|-----------|------------------|
| 27 | 横浜支部 | 7月15日 (金) | 横浜市、華勝楼 |
| 28 | 中野支部 | 7月21日 (木) | 東京都中野区、さかいや |
| 29 | 世田谷支部 | | 東京都世田谷区世田谷商工センター |
| 30 | 宮城県支部 | 7月23日 (土) | 仙台市、橘寿司 |
| 31 | 秋田県支部 | 7月24日 (日) | 秋田市、鎌田会館 |
| 32 | 群馬県支部 | 7月24日 (日) | 前橋市、商工会議所会議室 |
| 33 | 千代田・中央支部 (合同) | 7月27日 (水) | 東京都中央区、C&C会館 |
| 34 | 香川県支部 | 7月30日 (土) | 高松市、三友ビル“三彩亭” |
| 35 | 岡山県支部 | 9月11日 (日) | 岡山市、岡山プラザホテル |
| 36 | 北海道支部 | 9月16日 (金) | 札幌市、アカシヤホテル |
| 37 | 足立支部 | 10月1日 (土) | 東京都足立区、天心坊 |
| 38 | 新潟県支部 | 11月3日 (木) | 新潟市、田中ホテル |

叙勲者の紹介

勲5等瑞宝章 長谷川唯雄氏



長谷川唯雄氏は昭和8年工学院機械学科87回卒業後直ちに愛媛県東宇和郡明浜町の非金属材料である高山鉱山の経営者、鈴木産業株式会社に入社以来、セメントの原料たる石灰石の採掘に専念し、同社の専務取締役を務めた後、現

在取締役顧問として、またその間、四国非金属鉱業会副会長として長年に亘り産業振興の功績を認められ、昭和51年11月3日の好き日に勲5等瑞宝章を賜りました。誠におめでとございます。今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

自宅 愛媛県宇和島市愛宕町2-2-40
〒798 TEL 08952-2-1914
(菊池記)

法人だより

○ 守衛及び労務員の呼称改称について

最近の社会感覚に適合させ、職務意識と矜持の一助とするため、それぞれ守衛は警務員、労務員は、環境整備員(略称整備員)と呼ぶことをご励行願います。なお、これに対応して慣用呼称労務員長は職長と呼ぶことにします。

(注)職長とは特定の職場において、技能的または労務的業務を監督するもの、またはその能力を有するものの謂であります。

実施 昭和52年5月20日

○ 評議員の異動

高等学校PTA会長の交替による

新任 橋本広高 退任 根岸 実

○ 常務理事会参加について

7月6日開催の第377回臨時理事会において常務理事会参加が下記のとおり決定した。

常務理事会参加(経理担当) 山内那比古

任期 昭和52年7月6日～昭和53年3月31日

○ 評議員の異動

大学後援会々長の交替による。(6月25日付)

新任 田口友重 退任 佐々木祥雄

○ 評議員の解職について

宮本道経理部長は7月31日付をもって経理部長を退任したので、寄附行為第31条第2項第2号の規定により評

議員を解職した。

○ 創立90周年記念事業事務室設置について

創立90周年記念事業委員会の事務については、従来当委員会の事務担当者により処理されていたが、このたび当委員会の事業計画の実施に当り、事業の推進強化をはかるため、創立90周年記念事業事務室を設置した。

創立90周年記念事業寄付金申込者ご芳名

創立90周年記念事業委員会

創立90周年記念事業の趣旨にご賛同下され、関係者各位から下記のとおりご協力を賜りました。ここにご報告(第1回)申し上げますとともに、ご寄付お申込を賜りました各位に対して重ねてお礼申し上げます。

記

- この発表は、昭和52年7月1日から10月31日までにお申込をいただいた分であり、(すでに多数お申込もいただいております。)
- この発表は、お申込口数(1口5千円)で表示してあります。
- この発表は、会社団体・卒業生・教職員・その他に分類し、ご芳名(敬称略)の記載は、ご寄付申込受付順となっております。卒業生・その他の欄で学園関係者は特にその役名を記載、なお、教職員の欄で(卒業)としてあるのは本学園卒業生であります。

<会社・団体>

| | | | |
|---------|------|---------|------|
| 会社名(団体) | 口数 | 清水建設 | 3000 |
| 熊谷組 | 2000 | 大成建設 | 3000 |
| 鹿島建設 | 2000 | 東京衡機製造所 | 200 |

| | | | |
|------|-----|-------|-----|
| 井物産 | 100 | 稲田 光男 | 2 |
| 小林建設 | 60 | 和田 有功 | 2 |
| | | 山口 和雄 | 1 |
| | | 笹川 武 | 2 |
| | | 島村 良雄 | 2 |
| | | 小嶋 清 | 2 |
| | | 小林 孝文 | 2 |
| | | 杉山 秀夫 | 2 |
| | | 片桐 利夫 | 5 |
| | | 金子 功 | 10 |
| | | 伊藤 真治 | 60 |
| | | 佐藤 涉 | 5 |
| | | 深見 重俊 | 2 |
| | | 倉石 隆介 | 1 |
| | | 白河 昭三 | 10 |
| | | 腰越 孝夫 | 5 |
| | | 片山 幸夫 | 2 |
| | | 富田 幸男 | 2 |
| | | 菅原 康里 | 2 |
| | | 平等 八郎 | 4 |
| | | 島田 耕司 | 10 |
| | | 岡田 晴行 | 2 |
| | | 鈴木 隆 | 2 |
| | | 井村 威夫 | 2 |
| | | 石川 裕偉 | 5 |
| | | 関 治 | 2 |
| | | 池沢 紀六 | 7 |
| | | 北野 隆春 | 20 |
| | | 林 勝春 | 4 |
| | | 佐藤 修一 | 2 |
| | | 高野 尚武 | 2 |
| | | 多田 和正 | 1 |
| | | 横尾 寛 | 2 |
| | | 桜井 文雄 | 20 |
| | | 三角 武 | 2 |
| | | 間宮富士雄 | 20 |
| | | 月原 貢 | 100 |
| | | 木下 忠雄 | 6 |
| | | 鈴木栄太郎 | 2 |
| | | 鈴木 寛 | 2 |

<教職員> (役員・顧問・名誉教授を含む)

| | |
|-------|-----|
| 氏名 | 口数 |
| 橋本 宇一 | 100 |
| 宮本 道 | 20 |

| | | | |
|-----------|-----|-----------|----|
| 剛崎 章二 | 20 | 武藤 章 | 20 |
| 伊藤 鄭爾 | 100 | 安信 啓 | 10 |
| 山内那比古 | 50 | 十代田昭二 | 10 |
| 吉田 清風 | 10 | 永井 達明 | 6 |
| 河合麟次郎 | 20 | 保岡 豊 | 20 |
| 横田 道夫 | 60 | 秋山 守男 | 10 |
| 藤井 八郎 | 20 | 遠藤 鎮雄 | 40 |
| 吉田 辰夫 | 20 | 森島 恒雄 | 20 |
| 大庭 常良 | 10 | 赤松 泰輔 | 10 |
| 西野 治 | 10 | 牧野 英夫 | 10 |
| 加藤ライジ | 10 | 津田清四郎 | 6 |
| 柳瀬 駿 | 10 | 錦織 康男(卒業) | 3 |
| 加藤 健司 | 2 | 奥野サト子 | 2 |
| 大口 武 | 2 | 工藤 とめ | 2 |
| 遠藤庫太郎 | 2 | 岩崎 明 | 2 |
| 佐村 順子 | 2 | 小浪 博 | 40 |
| 永島 正義(卒業) | 2 | 佐野 一郎 | 6 |
| 柿沼 敏雄 | 10 | 倉持 道夫(卒業) | 2 |
| 金川 愛 | 2 | 平川 紀一 | 20 |
| 小沢 和男 | 2 | 平岡 正徳 | 10 |
| 大谷 貞子 | 2 | 後藤 道夫 | 2 |
| 赤羽 正彦(卒業) | 4 | 布施 敏夫 | 6 |
| 奥野 治雄 | 40 | 麦島 与 | 30 |
| 久保田正三 | 10 | 渡辺登志郎 | 6 |
| 玉置 久庸 | 10 | 山下 慶人 | 5 |
| 宗宮 尚行 | 10 | 佐々木正剛 | 2 |
| 岡田 実 | 20 | 坂本 雅夫 | 30 |
| 天草 卯 | 20 | 井上 実 | 2 |
| 佐々木高雄 | 7 | 黒谷 義雄 | 2 |
| 大塚 毅(卒業) | 2 | 穂本 佳能(卒業) | 5 |
| 池田 一郎 | 2 | 中山 浩一 | 5 |
| 下元 連 | 10 | 清水 俊 | 2 |
| 高瀬 柔郎(卒業) | 2 | 水野 広道 | 5 |
| 中原 義浩 | 6 | 川元 修三 | 20 |
| 高木 理逸 | 10 | 堀 慎次郎 | 5 |
| 中場十三郎(卒業) | 3 | 安達愛之助 | 4 |
| 山根 茂(卒業) | 40 | 飯室 金次 | 4 |
| 金谷 光一 | 10 | 大柴 文雄 | 40 |
| 池田 和夫(卒業) | 10 | 神原 満男 | 10 |
| 山口章三郎 | 40 | 北村 博 | 10 |
| 内田 夏男 | 5 | 中森 薫 | 5 |
| 松尾 靖秋 | 10 | 山本芳太郎 | 30 |
| 石田 秀夫 | 6 | 宇田川光弘 | 5 |
| 竹澤 恒雄(卒業) | 8 | 井上 晴雄 | 2 |
| 小林 偉男(卒業) | 8 | 山田 文昭(卒業) | 10 |

| | | | |
|-----------|----|--------------|----------|
| 森泉袈裟弥 | 10 | 洞沢 成 | 10 |
| 小清水 実 | 2 | 藤島 昌平 | 10 |
| 岩原 康夫 | 5 | 足立 哲夫 | 5 |
| 船木 兼吉(卒業) | 10 | 篠原 一之 | 5 |
| 藤井 進 | 6 | 加藤隆(機工科)(卒業) | 2 |
| 松山 守也(卒業) | 6 | 高橋 正之 | 10 |
| 宮越美知夫 | 6 | 市川 涓策 | 6 |
| 一之瀬和夫(卒業) | 6 | | |
| 田波 吉男 | 4 | <その他> | |
| 飯田 勝三 | 4 | 氏名 | 口数 |
| 茅野 昭(卒業) | 4 | 平野 四蔵 | 20 |
| 佐藤 貞雄(卒業) | 2 | 祖父江 寛 | 12 |
| 竹内 五一(卒業) | 40 | | |
| 妻木 元良(卒業) | 6 | 合計 | 204 件 |
| 鈴木 ミネ | 2 | | 12010 口 |
| 渡辺 雅夫 | 5 | | 60,050千円 |

大学だより

○ 学生自治会各部の活動

1部ヨット部

4月16、17日神奈川県葉山町沖で開催、関東理工系大学ヨット選手権大会で、今村・岡谷組が個人優勝を遂げた。総合では惜しくも3位となった。

1部バドミントン同好会

4月29日、5月1日日本学八王子体育館で開催された関東学生バドミントンリーグ戦(10部)で準優勝した。

1部卓球部

5月14・15日和光大学で開催された関東学生卓球リーグ戦(5部)で準優勝した。

○ 昭和52年度(文部省)科学研究費補助金内定者

(1)研究代表者。工業化学科助教 寺町 信哉

研究課題 高速流体クロマトグラフィーを用いた吸着・分配原理による高分子化合物の分離の研究

補助金額 30万円(一般研究B)

※51年度からの継続研究

(2)研究代表者。生産機械工学科教授。山口章三郎

研究課題 構造接着に関する研究

補助金額 640万円(一般研究B)

○ 学生自治会各部の活動

1部卓球部

9月3・4日日本学八王子体育館において開催された関東学生卓球リーグ戦(5部)で、優勝を遂げた。

○ 第28回新宿祭

第28回新宿祭が新宿校舎にて11月17日(木)より11月20日(日)4日間多彩な催しが盛大に行なわれた。

校友会だより

各種会議

7/6(水)(第1回)新会発足準備委員会。7/11(月)理事会(於)校友会々議室
出席者(18名)委任状提出者(13名)監事(3名)議事録署名人 松島一郎、内田恒雄
議題

- 90周年記念事業募金委員の選出について。
- 学園校友会準備委員会(仮称)の協議の内容について。

協議事項

- 総会の準備について。
- その他

報告事項

1. 支部総会報告

- 長崎県(5/28)鳥取県(6/2)
- 台湾(6/12)福岡県(6/19)
- 石川県(6/19)川崎(6/21)
- 埼玉県南(6/22)

7/22(金)第29回定時評議員会(於)大学第一会議室。
出席者(34名)委任状提出者(57名)監事。戸部英瑞
議長 樋口利一

議事録署名人。北村菊男、松島一郎

議案

- 第1号 昭和51年度事業報告について。
昭和51年度収支決算について。
- 第2号 昭和51年度財産目録承認について。
監査報告
- 第3号 昭和52年度事業計画について。
昭和52年度収支予算について。
- 第4号 同窓会との合併案承認について。
- 第5号 定款、施行細則一部変更について。

7/20(金) 第21回定時総会 大学第一会議室

出席者(41名)委任状提出者(570名)

議員。法島敏次 議事録署名人。船矢喜之助。片岡嘉量。

議案

- 第1号 昭和51年度事業報告について。
昭和51年度収支決算について。
- 第2号 昭和51年度財産目録承認について。
監査報告
- 第3号 昭和52年度事業計画について。
昭和52年度収支予算について。
- 第4号 同窓会との合併案承認について。
- 第5号 定款、施行細則一部変更について。
8/10(木) 新会発足準備委員会(第2回) 8/26(金)
新会発足準備委員会(第3回) 9/2(金) 新会発足準備委員会(第4回) 9/6(火) 常任理事会 9/16(金) 第1回募金合同委員会 9/20(火) 第2回募金合同委員会 9/24(土) 機械系卒業生会 9/27(火)
新会発足準備委員会(第5回) 9/29(木) 理事会(於)校友会々議室 出席者(21名)委任状提出者(13名) 監事(3名) 議事録署名人。伊藤孝好、小宮清則。

議題

- 新会発足までの予定について。
- 新会役員選出人員について。
- 校友会・学園同窓会合併祝賀会について。
- 東海大会の今後の開催について。
- 募金の合同委員会の設立について。

報告事項

- 支部拡充部報告(各支部総会)
 - (1)横浜(7/15) (2)中野(7/21)
 - (3)世田谷(7/23) (4)宮城県支部役員会(7/23)
 - (5)秋田(7/24) (6)群馬(7/24)
 - (7)千代田(7/27) (8)香川(7/30)
 - (9)岡山(9/11) (10)北海道(9/16)
- 愛知県支部からの申入れについて。
10/5(水) 卒業生募金協力委員会 10/8(土) 新会発足準備委員会(第6回) 10/12(水) 常任理事会
10/13(木) 新年懇親会委員会 10/14(金) 支部拡充部会 10/15(土) 電気系卒業生の会 10/20(木) 新年懇親会委員会 10/21(金) 新会発足準備委員会(第7回) 兼卒業生募金協力委員会 11/1(火) 新会発足準備委員会(第8回) 11/6(日) 校友会・学園同窓

会合併祝賀会(於)大学第1・2会議室 11/10(木)
新年懇親会委員会 11/17(木) 常任理事会 11/19(土) 事業部編集会。

会員の動静

出身学校別は次の記号によりました。

- A 工手学校、 B 工学院、 C 工業専門学校、 D 専門学校、 E 高等学校、 F 短期大学、 G 工学院大学、 H 中学校

氏名 学回科 勤務先

- 伊藤 勲史 G 6建 伊藤工務店専務取締役
- 加藤 知克 E 10建 岩波建設
- 丸岡 満夫 E 4機 全日本空輸(株)東京整備工場
- 大久保良明 D 140土 長崎県島原市役所建設課
- 篠崎 正 D 147建 桃山建設KK
- 山浦 正夫 B 88応化 湯浅電池(株)常務取締役
- 高橋 茂道 B 82電 東洋合板工業KK向浜工場、主任技術者
- 清水 正雄 B 93土 郡山ナマコン
- 桑原 寛 B 99採 福島石産鉱業(株)不動産
- 中村 方己 B 80採 石坂産業
- 衣幡 友勝 G 15工化 小名浜合板
- 寺井 猛 B 100建 (有)北陸清管工事
- 菊地宏一郎 G 2建 菊地工務店
- 斉藤 秀勝 D 129建 石川建設(株)
- 円城寺美津男 D 124機 (有)三興製作所
- 大橋 智夫 G 9電 京浜防災(株)
- 西村八洲男 B 104造 (有)太陽プラン
- 小村 雄英 G 5建 榑長谷川工務店
- 窪田 和人 G 15機 東京都立北豊島工業高等学校
- 賀山 勲 B 82機 中島工業有限会社
- 滝田 正次 B 106機 交通局互助会館
- 三沢 良輔 D 137機 三共機械工業所
- 青山 孝吉 A 72機 金沢商事(株)取締役社長
- 高橋健治郎 D 129機 高深商事(株)
(聖明)
- 山田 皓寿 D 133建 榑吉岡商店
- 豊島 末吉 A 68機 豊島許特事務所(弁理士)
- 太田 勲 B 106応化 東京第一電話取引業協同組合
- 酒匂 健治 G 3機 自動車部品製造(株)
- 伊東 昇 G 1機 日立化成工業(株)下館工場
- 庭野 七郎 B 105応化 榑大塚栄養研究所取締役

社 瑞 昌 G5化 三吉化工廠(台北市)
 後藤 昌義 G5電 三見金属工業(新日鉄より出向)
 吉清 徳夫 G8機 柳吉清鉄工所

訃 報

ここに謹しんで哀悼の意を表し、ご冥福を祈ります。

| 氏 名 | 学回科 | 死亡年月日 |
|-------|------|-----------|
| 田代 正房 | A48機 | 52. 6. 4 |
| 石川 謙三 | B90機 | 52. 7. |
| 久下 静 | | 51. 1. 31 |
| 藤本 賢三 | A32電 | 52. 7. |
| 中居 常治 | A50建 | 52. 7. |

| | | |
|--------|------|------------|
| 渡辺亀次郎 | A54建 | 51. 7. |
| 金子 二久 | A 建 | 52. 9. 2 |
| 関根 勝俊 | A66機 | 52. 2. 27 |
| 河上屋千代雄 | A60電 | 52. 5. 15 |
| 塩出 実 | A63機 | 50. 7 |
| 川崎 宗造 | A60機 | 52. 11. 14 |

◎上記中、川崎宗造氏(オイレス工業株式会社取締役会長・校友会相談役・学校法人工学院大学顧問)の記事は誌面の都合上次号に掲載します。

昭和53年新年懇親会のお知らせ

恒例の新年懇親会が、53年2月4日(土)、折込の別紙お知らせの如く開催されます。万障繰合せ御参加下さるようお願いいたします。

本年は、専門学校同窓と合同で開催され、なお翌日には中伊豆を観光バスで見学を行います。

会報原稿募集

編集部

次回発行昭和53年4月1日(年間4回発行)

1. 随筆、旅行記、文化活動記事
2. 業務解説、紹介記事
3. 研究記事(成るべく一般向きのもの)
4. 支部だより、会員消息、会員よりの声
5. 文芸(短歌、俳句、詩等)

- (注) (1) 選択は編集部に一任願います。
 (2) 1、2、3は400字詰原稿用紙7枚程度以内
 (3) 会報掲載分には薄謝を呈します
 (次号締切りは昭和53年2月末)

原稿の書き方についてお願い

- (1) 原稿は校友会の原稿紙または400字詰原稿用紙を用いること。
- (2) 表題の書き出しは2行位上部に余白をとること。
- (3) 書き出しや行を替える場合は左から一字分後退すること。
- (4) ピリオド(。)やコンマ(,)は1字扱いになりますので1字分を空にし、それ以外は空白を設けないこと。「」、“()”も前後各々1字扱いです。
- (5) なるべく当用漢字を使うこと。固有名詞などで必要な場合は適宜「ひらがな」でふりがなすること。

編集部

支部だより

中野支部総会

支部長 竹内七蔵

日時 昭和52年7月21日午後6時より

会場 中野駅前サカイヤレストラン4階。

以下の通り昭和52年度支部総会を開催した。

出席者次の通り。

本部より会長代理として落合支部拡充部長(支部相談役)出席。支部出席者は以下の通り

小崎信邦 小宮清則 大槻善二 安部道弘 見目惣一 平 新太郎 高橋喜久雄 吉田福三 落合康男 宮本隆一 竹内七蔵 樋口利一 山口毅鳳 千葉幸一 伊藤孝好 松坂立雄(以上16名)

委員諸兄の万障御繰合せ多数の御出席を得まして司会を副支部長の樋口利一氏にお願いして会議に入りました。

1. 開会の辞 司会者
 2. 支部長挨拶 竹内七蔵
 3. 議 事
 4. 会計報告 山口副支部長
 5. 来賓挨拶 会長代理落合拡充部長
 6. 会計監査報告 竹内支部長
 7. 役員改選の件は役員全員留任と決定
 8. 閉会の辞 千葉副支部長
- 議事終了後懇親会
 イ 支部拡充部現況報告 落合拡充部長



北海道支部総会

ロ 乾盃。挨拶 小崎信邦相談役

自己紹介懇談も活発に行われ、又諸兄より合併の承認と特に合併後の支部の位置付、本部に対する意見が行われて時を過し、最後に校歌斉唱し、小宮相談役の音頭で中野支部発展を祝し万才を三唱し散会した。

北海道支部第19回総会を終て

副支部長 小柳新平

去る9月16日第19回の総会を札幌市アカンホテルで午後6時から開かれた。

兼ねて御連絡を戴いておりました学院大学常務理事横田道夫先生並びに校友会拡充部長落合康男殿御両名の御出席のもとに総会に入り、司会および進行は小柳がつとめ、渡辺支部長の御挨拶、御多忙のところ遠路この総会に出席を戴き感謝に耐えませんが、北海道は広い地域に卒業生がお勤め又は定住しており、一同に会うことは仲々大変なことで本日それもA・B卒及びG卒を交えて22名の出席を見た次第です。当校友会も戦後再開して19年、明年度は学園との合併も長い交渉の日時も終り、北海道校友会の名称が替わると思う。これは本校の指示に従い変更し、20周年をおおぜいの卒業生による盛り上げた総会にしたいと思う。との言葉でむすび、この1年間の経過報告、本年は幸いにして死亡者ゼロ慶賀に耐えませんが、9月16日東北大会が松島海岸ホテル大観荘で宮城支部主催により盛大に開かれ、渡辺支部長、小柳副支部長参会し、同窓会と校友会の質疑応答が活発に行われた旨を報告、全道在任会員名簿を整理し全員に配布、その数百十一名。52年2月6~7日には校友会新年懇親会が熱海新道ホテル(経営者吉田一高、造船83卒)で開かれ、合併問題の討議があった。この件は会報94号の編集後記(15P)にある如く喜ばしい事でありました。6月11日苫小牧在住菊地幸三郎(建G38卒)が柳ジャンプ・アソシエイツを創立し、代表取締役役に就任し卒業の同志と共に建築主体及び附属関係工事を開業したのでこの席で祝福のことばをのべる。以上多少省略しましたが副

支部長小柳の報告終って、これより御来席の横田先生より創立90周年記念事業について御説明があり、資金募集趣意書を夫々配布その協力の御願いに一同趣意諒承、拍手を以って賛成しました。次に拡充部長より合併問題、今日までの経過の御説明、各支部で種々討議の結果は合併案に賛成了承を得た旨の報告など、今日までの御苦労に対し拍手を以っておこたえいたしました。これより美人ホステスのサービスのもとに祝宴に入り、乾盃の音頭を尾光五助大先輩にお願ひし、酒盃をくみ交わし、横田先生並びに落合部長各テーブルを回り、在学中の思い出ばなしに時の過つのも忘れ定刻8時30分盛会のうちに次回の会合を約して解散した。

足立支部総会

副支部長 角田 孝助

足立支部においては昭和47年11月に総会を開催以後種々の理由により今まで会合を持たなかったが、近く学園90周年記念式典を迎え、また校友会、同窓会の合併問題が合意に達し覚書交換の済んだのを機とし久しぶりに総会を開催した。(司会・角田)

- 日時 昭和52年10月1日(土)午後6時
- 会場 足立区千住仲町56 割烹「天心坊」
- 次第
 1. 荻野支部長挨拶
 2. 来賓挨拶(落合支部拡充部長、学園の近況その他詳細報告)
 3. 会計報告 支部長
 4. 役員改選(別項通り決定)
 5. 懇親会、写真撮影(村井、稲見両支部長)



り挨拶あり)

久しぶりの会合とて懐かしさが一層加わり、和気藹々の内に午後8時半散会した。

なお当日出席者ならびに役員改選の結果は以下の通りである。

出席者

B87機萩野栄起、A79電角田孝助、B96電村井巖、B85土稲見時一、B102機千賀寿、D127建榎本正造、G7化清川義雄、G5化福島正男、B99機丸次一美、G9建斉藤隆夫、G8建杉田一郎、D140機木村弘(以上12名)ほかに本部支部拡充部長落合康夫氏出席。

(備考)足立支部名簿により96名に対し封書により、予め案内状を発行したが内、返信はがきにより返事であったもの30通、ほかに住所変更その他により返送されたもの5通あった。

また、宮崎一夫氏は生憎同業者間の大事な会合と日が重なったため欠席されたのは残念だった。

来年4月よりの新会(工学院大学学園校友会)の発足後は支部の運営形態もまた当然変った形となることが考えられるが、それについても種々の意見や希望が出された。

役員選任結果

昭和53年3月までの暫定として以下決定、

支部長 萩野栄起、副支部長 角田孝助、村井巖、稲見時一。会計 千賀寿、宮崎一男(D148)以上留任。会計監査 村井巖(兼)

備考 (1)幹事、地区部長は暫定処置として設けないことにした。

(2)角田副部長は本部事業部長ならびに評議員、宮崎会計担当は本部評議員を現在勤めている。

八南支部総会

支部長 菊池 誠

去る2月15日(火)午後6時より、東京都八王子合同庁舎前の大衆割烹「ぼんち」に於て開かれた。

当日の出席者16名、隣接の多摩支部より内田恒雄理事が来賓として、また本部より落合康男支部拡充部長、小野塚政雄総務部長が出席、合計19名出席の上開かれた。

宮沢喜八副支部長の司会により菊池支部長の挨拶、決



算報告並びに昭和52年度予算などの予定通り議事を進め、役員改選については時間の都合もあり全員保留とし、早い時期に総会を開き役員改選することとし、本部側の小野塚総務部長及び落合支部拡充部長より、校友会と同窓会の合併問題についての現況報告と説明があり、支部側よりは早い時期に合併実現を要望し、円満に総会を終了した。

引続き懇談会に移り、年長者の寺田益治郎氏の乾杯により一酌傾けながら自己紹介の後お互の旧談話を語り合い、楽しい一夜を過ごし、次回を楽しみに散会した。

工手学校・工学院 御出身の皆様へ

工学院大学専門学校同窓会
会長 森山 健次

御先輩諸賢には益々御清栄のことと、お慶び申し上げます。

皆様から私達の同窓会に対し、また母校専門学校に対して、常日ごろ賜ります有形無形の御支援を、心より厚く御礼申し上げます。

さて、校友会、学園同窓会分立という変則状態も、皆様の御尽力により解決間近となりました事は、誠に喜ばしい限りでございます。新会発足の準備が着々と進みつつあります時にあたり、大先輩の皆様へ、わが専門学校の真意をお伝えして、一層の御理解と御援助を得たいと

■編集後記

今年も残りすくなくなりました。校友会新年懇親会の公知に併せて会報をお届けします。校友会としては最後の懇親会となるわけですが、同窓会関係者の出席も多数見込まれて居り、賑やかな会合となるものと予想されます。どうぞ賑々しく御参加下さるよう希っています。原稿不足の気味ですが、坂口義雄氏の台湾校友会総会への参加記は長文で且つ難しい漢文字が使用された名文ですが、印刷の都合上割愛させていただいたことを御了承願います。それではよいお年をお迎え下さい。秋の叙勲を受けられた皆様の紹介は次号に譲らさせていただきます。(角田)

存じます。

まず第一は、当会は皆様に当会の正会員として御加入下さいますようお願い致します。合併最終案では“工手学校、工学院の出身者は大学同窓会に所属する”ことになりましたが、合併交渉の途中では“工手学校、工学院の卒業生は原則として専修同窓会のメンバーになる”ことが合意されておりました。当会では合併のための会則改正で、〔正会員は専門学校およびその前身校の卒業生で、正会員として登録した者〕として、皆様からの御申し込みがあれば、無条件で正会員として迎えさせていただきます。二つ以上の同窓会の正会員という例も多いことですから、大学同窓会と同時に当会の正会員としても是非御入会いただき、直接後輩の御指導をお願い申し上げます。尚正会員は維持費年1口1000円以上納入することになっております。入会金は不要でございます。

願ひの第二は、既に多数の方に当会の賛助会員として御後援いただいておりますが、でき得れば更に多数の方々のご支援をいただきたいと存じます。新会則では〔賛助会員は本会の目的に賛同し理事会が承認した者、賛助会費は別に定める。→年10,000円に内定〕となっております。

以上の如く、当会は皆様のあたたかい御援助を、更には積極的な御参加御指導を待ち望んでおります。当同窓会は大学同窓会に比べ、経済的には甚だ弱体ではございますが、会員相互の親睦に徹し、母校専門学校の後援に熱意を燃す、活気ある同窓会と自負致しております。なにとぞよろしく御願ひ申し上げます。

未筆ながら皆様の御健康、御隆昌を衷心よりお祈り申し上げます。

追伸

正会員または賛助会員の御申し込み、御問い合わせは、下記当会事務局までお電話またはお手紙をお願い致します。

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-2 工学院大学専門学校同窓会 事務局 電話 03(342局)1216・1217 (担当 宮沢、佐野、中島、安原)

タイヤ **新製品**
ローラ

小型自重 3t

補装最適
アスファルト



パイプロプレート

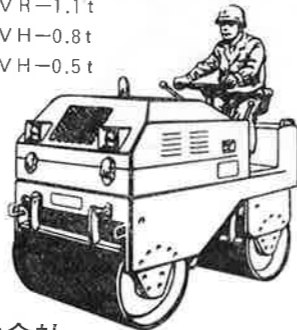
アスファルト固め
路面整形・修理

- P-120kg
- P-90kg
- P-80kg
- P-60kg
- VP-70kg



ローラ
車両 / 駆動・振動

- アスファルト舗装
- サイド転圧可能
- ステアリング軽快
- MV-3.0t
- MVR-2.5t
- MVR-1.1t
- MVH-0.8t
- MVH-0.5t



株式会社
明和製作所

川口市青木1丁目18-2
社長 月原 貢(機58)
本社・工場(0482)5114525~9 代表 〒332

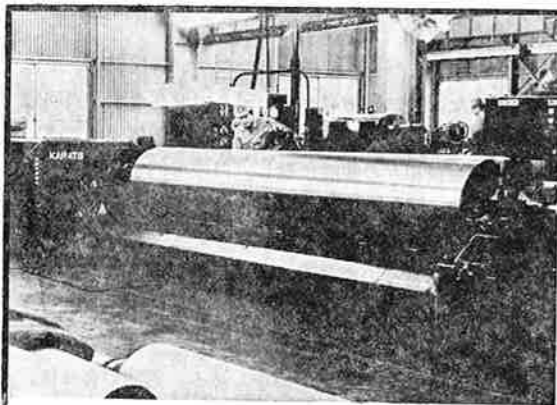
明和

パイプロランマ
〈防音型〉

- 路盤碎石締固め
- 水道・ガス管・道路
- 電設・盛土埋戻
- RA-120kg
- RA-80kg
- RA-60kg



- | | | |
|--------|----------------------------|------|
| 大阪営業所 | Tel (06) 961-0747-8 | 〒536 |
| 福岡営業所 | Tel (092) 411-0878-4991 | 〒812 |
| 広島営業所 | Tel (0822) 93-3977(代)・3758 | 〒733 |
| 名古屋営業所 | Tel (052) 361-5285-6 | 〒454 |
| 仙台営業所 | Tel (0222) 96-0235-7 | 〒983 |
| 札幌営業所 | Tel (011) 822-0064 | 〒062 |



株式会社 **小出ロール鉄工所**

代表取締役 小出 虎男 (機械59回)

本社 東京都墨田区吾妻橋 3-5-12 〒130 電話(03)625-4151(代)
(浅草通り業平橋隣)

習志野工場 千葉県習志野市東習志野6-21-8 電話(0474)75-3811(代)

鷺沼工場 千葉県習志野市鷺沼3-135 電話(0474)74-1296(代)

君津営業所 千葉県君津町 君津製鉄所サービスセンタービル331号
電話(04395)2-2880

ロール

- 製鋼用 製紙用
- 繊維用 プリント用
- ゴム・ビニール用

技術と精度を誇る

荏原製作所 代理店
荏原インフィルコ

営業種目 ポンプ・送風機・冷凍機
油圧機器・水処理装置(上、下、汚水)
工場廃液処理装置・ボイラー
冷却塔・粉末自動供給機
その他風水力機器の販売並びに施工



荏原実業株式会社

取締役社長 岩城 福三郎 (58回機卒)

本社
横町工場
静岡営業所
大阪営業所
仙台営業所

東京都中央区銀座7丁目14番1号
東京都大田区北嶺町4番18号
静岡市御幸町8番地旭ビル
大阪市北区梅田町46番地 桜橋第一ビル705号
仙台市中央2丁目10番12号 仙台マルセンビル3階

電話 03-542-5511(大代表)
電話 03-720-4161(代表)
電話 0542-55-2401(代表)
電話 06-345-8222(代表)
電話 0222-61-2621(代表)

金属磨ピカール

家庭用の光沢磨料

硝子磨グラー



油脂性研磨材製造

日本磨料工業株式会社

取締役社長 斉藤 孝

東京都港区芝高輪3-23-15 電話白金(441)6231-5



ゆとりが
できます

〈中央〉の貸付信託

- 5年もの年6分7厘2毛
- 2年もの年5分7厘0毛
(いずれも予想配当率)
- 1口1万円 ●元金保証
- 便利な無記名式もあります
- 1人300万円まで無税扱い可
- 郵便局からも申込み可

中央信託銀行

新宿支店 / 〒160東京都新宿区西新宿1-7-2 (342)8511

創業大正7年



総合建設業

丸彦渡辺建設株式会社

代表取締役会長 渡辺彦太郎 (電59)

代表取締役社長 渡辺藤次

本社 札幌市豊平区豊平6条7丁目30番地 〒062 ☎011代表811-8121
 東京支店 東京都千代田区九段南2丁目3番21号 〒102 ☎03-263-5711
 名古屋支店 名古屋市千種区千種通り2の19 〒464 ☎052-741-3029

工学院大学校友会の皆様熱海温泉へどうぞ

会社関係の御宴会、御家族連れの小旅行等、工学院大学校友会関係の皆様には、**特別サービス料金**にて御下命をお請け致しております。熱海温泉の**新道旅館**を是非御利用くださいますようお願い申し上げます。

◀工学院大学校友会々員特別料金▶

御一名様 **¥ 6,000** (税金、サービス料含む。但し土曜日、
(一泊二食付) 祝祭日の前日は除く。
尚 10名様以上の団体様には酒又はビール2本宛お付けいたします。

収容人員 120名様
お申込は電話にて工学院大学校友会々員とお伝えください。

政府登録国際観光旅館・工学院大学校友会指定旅館

新道旅館

経営者 吉田一高 (造船87卒)
 所在地 国鉄熱海駅より徒歩8分
 〒413 熱海市東海岸町12-60
 TEL (0557)(81)3567(代表)
 テレックス 3927-671



東京案内所 TEL 03-371-7498-9767
 東京都新宿区西新宿7-10-10(城ビル内)
 仙台案内所 TEL 0222-23-6874-5029

新技術
生にきる

東京応化

“新技術の研究・開発”を motto に高純度・高性能製品のみを生産しています。当社の製品はエレクトロニクス、印刷界をはじめあらゆる業界と関連しており、さらに新製品の完成をめざして努力しています。

高性能化学品 電子工業材料 フォトレジスト
 フォトレジスト関連機器 印刷製版材料
 オフセット版材 機器類(レジスト・プラズマ等)他

76年毎日工業技術奨励賞受賞
第2回 井上春成賞受賞



東京応化工業(株) 社長 向井繁正 (応化60)

本社 川崎市中原区中丸子150 044-411-2131 (代)
 東京営業所 東京都千代田区内神田3-17-10 03-254-4995・256-4293
 工場・研究所 川崎・相模・京浜・宮内

オイレス

まわる・すべる・ささえる

どんな動きも、オイレスがひきうけます。
工場に、街に、家庭に、
山に、河に、海に、そして空にも——
あらゆる分野にオイレス製品が活躍します。



支承



オイレス工業株式会社

東京営業所 東京都港区新橋2-1-1 TEL (03) 501-1261
 大阪営業所 大阪市西区土佐堀船町23 TEL (06) 448-2533
 名古屋営業所 名古屋市中村区泥江町1-1-3 TEL (052) 582-6531
 営業所 広島・福岡・静岡・金沢・小山・仙台
 工場 藤沢・大和・滋賀

総合建設業

株式会社 関口組

取締役社長 関口城吉 (建73)

〒211 本社 川崎市中野区新丸子町713 電話 044-711-2351(代)

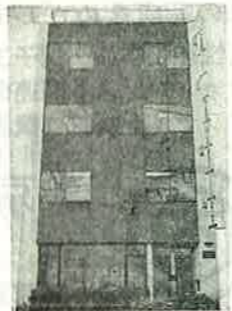
創業昭和15年

福島会計事務所

所長 福島誠一 (建築103回卒)

事務所 〒165 東京都中野区新井4丁目18番10号
福島ビルディング 103号

TEL 03-388-6081(代表)



福島ビルディング

International Patent and Trademark Law

瀧野特許事務所

東京都千代田区内幸町2-1-1
飯野ビル103・105号室
電話 東京 (502) 3171(代表)
TELEX No.2225192 (TAKINO J.)

TAKINO PATENT OFFICE

Room Nos, 103 & 105 IINO BUILDING
1-1, UCHISAIWAI-CHO 2-CHOME, CHIYODA-KU, TOKYO, JAPAN

建設とは人間を考えること



清水建設

本社：東京都中央区宝町2-1-1 TEL(535)4111 〒104
支店：名古屋・大阪・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌

鋳鋼・ミーハナイト鋳物

1個の最大重量 鋳 鋼 30 Ton
ミーハナイト 30 Ton

(土木54卒) 会長 鈴木 信次



川口金属工業株式会社

川口市宮町18番19号 TEL川口(0482)52局4511代表
丸の内1~1 交通公社ビル TEL (211) 4871~2

高崎金属工業株式会社
鈴木パーライト株式会社



タイキョク

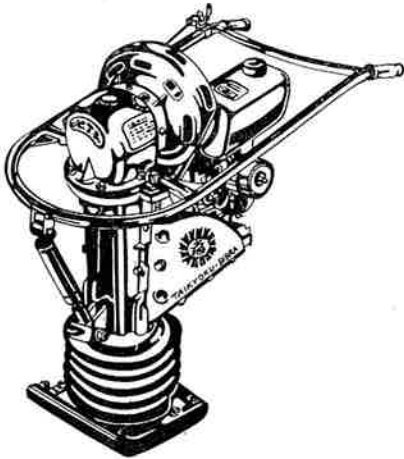
大旭の輾压机

実用新案

ビブラー

TV808

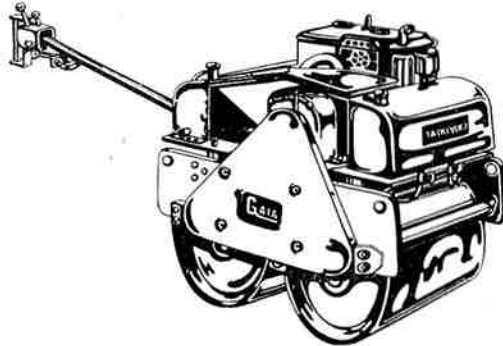
TV110



特許出願中

振動ローラ

TWR-750



創業52年・通産省指定工場
発明協会功賞・通産大臣賞

小型輾压机専門メーカー

大旭建機株式会社

取締役会長 **三浦一元** (機56卒)

取締役社長 **三浦健**

本社・工場 川口市東本郷上溜2600-1
〒334 TEL (0482)84-1111(代表)

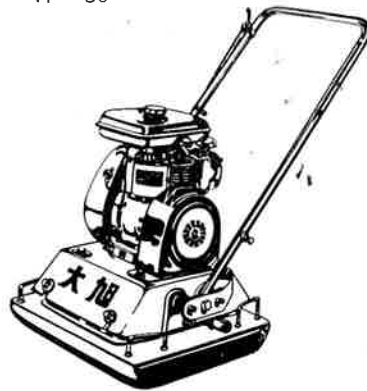
営業所 東京・札幌・仙台・名古屋・大阪
広島・福岡

実用新案

ユニプレート

TP-65

TP-80



第二十六卷 第二号
昭和五十二年十二月一日発行

編集人兼 角田孝助
印刷所 東京都中央区
弘報印刷株式会社
電話(552)九七三一

発行所

社団法人 工学院大
友会

東京都新宿郵便局私書箱第十三号
東京都新宿区 西新宿一-二四-二
電話(淀橋342)二〇六四番
振替東京九一-一〇八番
〒一六〇一九一